

周波数ひっ迫対策技術試験事務 平成27年度事前評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
移動型の携帯電話用災害対策無線通信システムに関する検討	H27～29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣旨は十分に理解でき、大いに推進すべき技術試験事務と考える。</li> <li>・実運用時の対象カバーエリアやヘリコプタのその時可能なホバリング高度を考えると、搭載するアンテナのビーム幅特性と飛行高度との関係の明確化を求める必要がある。</li> <li>・隣接する無傷の基地局の送信電力増大などによる対応の可能性など、その他の現実的で効果的な手法による本課題解決にも十分考慮して頂きたい。</li> </ul>	3.8
Ka帯を用いた移動体向け海上ブロードバンド衛星通信技術に関する検討	H27～29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海上におけるデジタル・デバイドの解消は重要な課題であり、本案件の必要性は高い。また、ブロードバンド化、離隔距離の緩和化の観点からも、Ka 帯を使う技術の妥当性もある。</li> <li>・Ka 帯を使ったブロードバンド通信は陸上においても需要はあると考える。今まで、アンテナの低価格化が大きな課題となっていたが、まずはデジタル・デバイドの解消を最優先に、高価なアンテナを必要としないシステムについての検討も必要ではないか。</li> <li>・Ku からKa バンドにして伝送速度を10 倍するだけで最低16dB の改善が必要。サービス性を向上するとさらなる改善量が必要になる。その具体的な実現根拠と実海上伝搬環境での特性把握をしっかりと求めていただきたい。</li> </ul>	4.1